

# 文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間

会報 No.42

二〇〇七年六月一〇日発行

川崎市幸区古市場 2-109  
京浜協同劇団内  
TEL 044-511-4951  
郵便振替 00250-3-18369

## 初夏の藤野町で語り合いました

——劇団・文化の仲間交流企画

山木 健介

五月一二日(土)〜一三日(日)の一泊二日で、藤野町の陣谷温泉に行ってきました。劇団員二名と文化の仲間一二名の合計二四名の参加でした。藤野町は横山茂さんの経営する「シーゲル堂」がある町です。横山茂さんは、私たちが主催した「平和をおもう朗読の会二〇〇三——横山茂・生きること、うたうこと」で、心にしみる澄んだ歌声を聞かせてくれた方です。

劇団員も文化の仲間の会員も忙しい人が多くて、常日ごろなかなか話し合いが出来ない。泊りがけて腰をきちんと落ち着けて話し合う場があったらいいねということ、四年前の横山茂さんとシーゲル堂を思い出し、藤野町に行くことにしました。

一二日は劇団に集まって車で行く人と、現地に直行する人がいましたが、劇団からほぼ二時間で陣谷温泉に到着し、早速、宿自慢の檜風呂に入るとい

人が大部分でしたが、この檜風呂は四年に一回新しい檜と交換するそうですが、ちょうど今年が四年目に当たり、我々が行く少し前に新しい檜風呂に替えたり、たしかに、檜の香りがする真新しい温泉風呂でした。しかも、風呂場は片側がガラス戸で山並みや川の流れが見通せる絶景でした。

夕食の前に、話し合いのきっかけとして最近の劇団公演の「ミスター・チムニー」と新人発表会についての感想などから入ってはどうかという提案がありました。話の中で、今回のチムニーで劇団の和田庸子さんが初めて台本を書いて大変評判になったので、今後座付き作家になっていくのかな?という声があったりしました。夕食交流会とその後部屋での二次会でも、普段の付き合いや飲み会では言わないような突っ込んだ劇団の過去・現在・未来についての意見交換がありました。文化の仲間としては新

人劇団員を励まし、劇団に定着してほしいので、時としては新人のタニマチになって支えていくと発言したら、俺たちのタニマチにもなってくれとの声が飛んだりしましたが、和気あいあいと午前二時近くまで議論していた人もいた交流会でした。

最後に、食い意地が張っているから言うわけではありませんが、陣谷温泉の夕食と朝食も質量共に大変満足のいくものでした。機会があればまた訪れたいと思いました。



話し合いが大いに盛り上がった交流会

(写真：角田博志)

# 初めての演出を終えて

——新人発表会「息子」

京浜協同劇団 柳沢芳信

チムニー終了後から急遽立ち上げて短期間で取り組んだ今回の発表会は、いくつもの困難を乗り越えてやっとのことで軟着陸することが出来ました。しかも予期せぬ好評を得て複雑な心境です。全面的なバックアップで成功に導いてくださった劇団員の皆さん、未熟な演出にもかかわらず良く私を受け入れて頑張った新人の皆さん、そして私たちを温かく見守ってくださった仲間の会の皆さんに感謝を申し上げます。ありがとうございます。

「新しい力を育てる」ということを前面に押し出して取り組んだ今回のお芝居は、「チムニー」に参加した3人の新人で何かやりたいね」という新人達の思いと、「新人の発表会ぐらいから演出をやってみよう」という私の下心と、「小山内薫の『息子』をやりたい」という黒田さんの強烈な思いが交錯し、もつれ合って実現しました。当初新人からは細田さんに演出して欲しいという声が上がっていましたが、「それでは新しい力は育たない」「新人担当者がやるべき」「柳沢にやる気があるならバックアップはするから頑張れ」という運営委員会の意向で私が初めての演出に挑戦することになりました。

とはいえこの作品は難しい要素がたくさんありまして、新人がやるにはふさわしくないという声も上がりました。しかし「難しいからおもしろい」「だめで元々」「当たって砕ける」と生来の樂觀主義者である私には好奇心をかき立てる作品でありました。小山内薫は新劇の父と言われ、日本にリアリズム

演劇を持ち込んだ人ですが、当時の日本のスター中心主義、「芝居を見物にいく」という状況を批判して、戯曲中心、演出を媒介として作品の世界を正しく舞台に表現することを追求しました。そんな中で生まれたこの本は大正時代に書かれたとは思えない平易な言葉で書かれ、心を打つ力強さがあります。この新人達がそれぞれの持つ課題への挑戦、ステップアップへのテキストとしてはまさにピタタリの作品として私には思えました。

はじめて演出に取り組むに当たって、私はまず自分の感性を信じていることができなければ演出の仕事は成り立ち得ないと考えました。謙譲の美徳と優柔不断が持ち味で先頭に立つことを避けて生きてきた自分を否定して、自分自身をお山の大将に持ち上げて自分の思いを前面に押し立てて進めていく努力をしました。

当初のプランでは、火の番がかなり早く息子に気づくということで、火の番を主役に仕立てようとなりました。しかしそれはとても高度な心理劇となり、私の力では完成に至ることが出来ず。本番の6日前に急遽解釈変更して気づきを遅らせることになりました。役者には大きな動揺を与えてしまったし、自分の解釈を貫徹できなかった無念は残りますが、お客様に喜んでもらえる舞台に仕上げるのが演出の使命とも考えました。

装置のプランは新人のメンバーで意見を出し合い、張さんにいろいろとレクチャーしていただき、私の



朗読



新人発表会「息子」(GP)の舞台

(写真：長坂訓弘)

プランを軸に完成に至りました。「装置をみんなで考える」というのは初めての経験でしたが、とても勉強になりました。今後も機会を捉えて、繰り返し出来たらいいと思います。ただ、「装置をみんなで考える」というのは、今回のように私のような駆け出しが夢中でやっているときより、経験の豊かな指導者が、余裕を持って上演指導をする中でやられた方が、有効な学習になるように思います。

「失敗が許されない」プレッシャーの中で着地点を探る演出となったのが今回の「息子」であったように思います。7時に来ない演出者と、8時にならないと来ない舞台監督という不利な条件の中での取り組みでしたが、良く支え励ましてくれた運営委員会と先輩の皆さんに感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。

# 「俺、頑張ったよ」の ことばを残し

——西尾恒彦氏の死を悼んで——

川崎市民劇場 関 昭三



若い頃の西尾恒彦さん

病状が思わしくないと聞きながらも、あの楽天的  
でふてぶてしい西尾さんが他界することなど実感が  
ありませんでした。八月の末、故斉藤忠夫さんの  
葬儀会場でお会いした彼は、見るからにやせてい  
ました。それでも笑顔で（葬儀場では失礼でした  
が）、久しぶりの再会の握手を交わしました。その  
時、元職場の仲間から、「昨年六月、奥さんと一緒  
にバルト海を旅をして『もぐり』をやってきたよ」  
「来春の市議会選挙を頑張る奥さんの意思是、きつ  
と夫、恒彦さんの生への頑張りに応えるためでもあ  
るんだ」と聞いていました。それだけに、葬儀の際、  
理恵子さんの挨拶の中で「俺、頑張ったよ、もうい

いだろう。ありがとう。」という『彼、最後の言葉』  
の紹介に深い感動と、あらためて西尾恒彦さんの芯  
の強さを思いました。

彼との交流、共に活動した時期は市民劇場四〇年  
の歩みの中では大変短かったことに驚きます。私に  
とつてその時々常に西尾さんの存在があつたよう  
気がします。

西尾さんとの出会いは、一九六四年頃だつたで  
しょうか。京浜協同劇団が、倒産し労働争議中の「大  
和電気」を稽古場にしていた時期、初めて稽古場見  
学の折に、だつたと記憶しています。当時は、劇団員  
とばかり思っていました。その後の交流の中で「京  
浜協同劇団友の会事務局長」であること、私より四  
歳も若い鋼管労働者であることを知って驚いたこと  
を思い出します。何しろ、にこにこ（ニタニタ）し  
ながらも、説得力ある弁舌、ガリ版切りがうまく、  
行動力のある彼でした。「さすが、京浜労働者だ！」  
と当時、社会に出て間もない営業マンという肩書き  
の私は圧倒されっぱなしでした。

一九六六年五月、演劇、音楽、文学、うたごえ団  
体はじめ、市内の民主団体が一同に会して取り組ま  
れた《わらび座・いちよう座合同公演ミュージカル  
「おれたちの山」公演》は、市立体育館に一四〇〇  
名の観客を集め成功させました。その取組みの中か  
ら「労演」づくりがはじまったのですが、その中心  
に彼はいたのでした。

渡田に構えた事務所は「労演の家」と命名し、昼

夜を問わず青年男女が出入りし、朝にピラまき、夜  
にポスター貼りという創立期の熱気を作っていたの  
です。組織担当責任者として、三交代の勤務をフル  
に生かしてその活動の先頭にいつも西尾さんがいま  
した。

九年ほど前、奥さんが職場を退職したことを期に、  
市民劇場の専従事務局員に送り出してくれた時、彼  
の心の中に、きつと「労演の創立期の活動は、自ら  
の青春」として大切にしていたことを感じて嬉しく  
なつたことを思い出します。私にとつて、民間企業  
の職場から、生活もおぼつかない専従事務局員とな  
り、ひとつの生き方の決断を、後ろから押ししてくれ  
たのが西尾さんでした。

職場を定年で退職し、思う存分、これからを生き  
るはずだつた西尾さんです。聞けば、地域の子供さ  
んとふれあいづくりに熱く燃えていたと聞きまし  
た。早すぎた死が残念です。「もう、いいだろう」  
と云つて去つた西尾さん安らかに。

（二〇〇七・五・一〇）



旅行先で (写真はいずれも遺族提供)

京浜の演劇・戦後編 その序章③

## 京浜芸術学校の周辺

須田 輪太郎

南武線の鹿島田駅を下車して、平間へ向う左側線路沿いに、日立製作所の社員寮があった。日立鹿島田工場は空襲で廃墟となったが、奇跡的にその建物が焼け残ったという。

京浜芸術学校は、たぶん社員寮の食堂と思われる部屋を会場に、三週間くらい六〜七回夜二〜三時間の講座がもたれたと記憶する。

ボクは主催者に近い立場なのに、いや、それ故にかも知れないが、せいぜい五時間くらいしか講座の席に坐っていないかと思う。

一九四七年の晩秋。夜はかなり寒かったが五十人の受講者の熱気が寒さを感じさせなかった。ボクは国鉄大井の故鈴木元一氏と一緒に受講したが、もう一組同じ職場の人と解る作業着の人がいた。東芝小向工場にいらした大橋喜一さんと、もう一人の体格のいい方が俳優の織本順吉さんだったことを、ずうっと後になって知った。翌年の神自協コンクールの「芽生え」で、主役を演じる織本さんと作者の大橋さんのお二人が受講していたのだ。

京浜芸術学校の開設は、この時期に急速かつ広範な台頭をみせた職場演劇（自立演劇）が、「労働者

の政治的自覚と芸術的要求の中で発展し、新劇界に一定の影響をもたらす迄に成長していた。一九四八年、第一次民芸が職場作家の作品を上演し、日立亀有・国鉄大井などの職場演劇が新劇界に衝撃を与えた」（菅井幸雄編・新劇その舞台と歴史）。そういう状況の中で、働く人々を主な対象とした「舞台芸術学院」が四八年九月に開校される。京浜芸術学校は演劇状況の変化を先取りするかのよう四七年十一月に開校されたのである。

前章で述べたように、働く者の手で創り出される演劇への、プロの新劇人の肩入れは異常と思えるほどで、アマチュアをプロが指導するとか、専門化が無知なる人々を教え諭すという態度とはまるで違う、自身の演劇生命のすべてを自立劇団運動の成否に賭けているといった意気込みを感じさせるものだった。

陣ノ内鎮、松尾哲次・村山知義・八田元夫といった講師は、ご自分の講義のない夜も、度々お顔をみせてくれた。特筆したいのは、その二年後にボクの人生行路を変える人形劇の川尻泰司さんという講師にここで出会って講義を聴いたことである。ボクより十四歳年上で、再建された人形劇団ブークの代表だった川尻さんは、ブークという劇団名がエスパーント語のブークパークル・ボウ（人形クラブ）の略語であることから話し始めた。

その頃のボクは、人形劇については全く無知だった。三本指で動かすノンキな父さんの人形を夜店で売っていた記憶はあるが、小さい子どもの遊び道具

だとばかり思っていた。「人形劇は演劇の一ジャンル」といわれてもピンと来ないし、昭和六年に築地小劇場で人形劇団ブークが公演したという話を聞いても、何か外国の演劇のことのように思えた。

後年、人形劇の世界に入ったボクは、故川尻泰司氏のような日本の現代人形劇の開拓者たちが、戦前の治安維持法の予防拘禁で何度も投獄され乍らも大政翼賛会の傘下に入らずに、民衆の人形劇の課題を追求し続けた抵抗の歴史を知って、驚きと感銘を覚えた。

職場演劇を自立演劇と言い換え、「新劇の大衆化・自立劇団の育成」を、戦後の自覚した演劇人共有の大テーマにした仕掛け人は、故陣ノ内鎮さんだったとボクは思う。その陣ノ内さんが、宇野重吉さんと共に現われた。

宇野さんの講座は予定にはなかったが、受講者への挨拶をしてもらった。後で知ったことだが、陣ノ内さん・宇野さん・村山知義さんという三人の方々は、鎌倉の大谷戸の邸宅に家族ぐるみ三世帯の共同生活をなさっていて、村山さんは「鎌倉アカデミア・演劇科」の主任教授も務められていた。宇野家のご長男（寺尾聡さん）誕生もこの頃かも知れない。

神奈川の肥沃な演劇風土が醸成される予感の中で、自立劇団の誕生も相次いでいた。（つづく）

（人形劇団ひとみ座前代表

\* \* \*

# ぜひ観てほしい

## 舞台です

京浜協同劇団 吉武寿美子

いよいよ第三三回かわさき演劇まつりの稽古が始まりました。今年の夏はアンデルセンの名作「はだかの王様」に決まりました。

私は今回制作の仕事させていただくことになりました。制作の立場というのではなく、この公演に参加する人間として、どのようにしてこの作品を一人でも多くの人に広めたいのか、演出や制作班の中で何度も話し合ったこの作品の魅力についてまとめてみました。

今度の「はだかの王様」は、アンデルセン原作といいながら、故黒澤参吉によりかなり脚色された内容でもあります。

正直にまじめに生きている人たち（織物師に代表される）と、権力を持ち人をおとしいれ、私利私欲をふやそうとする人間（韓大臣）との対立を通して、まじめに生きていくことがどんなに大切かを教えた作品です。

今、現実の社会でも企業モラルの低下や原発など直接命にかかわる大切な問題で、うそやごまかしなどが続発しています。

しかし、そういう、いや不正はいつか必ず人々に知られ、真実がわかるときが来る、という今（こんにち）的なメッセージがあります。

またこのお芝居は、ボンとパンの正義感と勇気でわるだくみを一つずつ見破っていく痛快な物語でもあり、きつと観る人に笑いと感動を与えてくれるでしょう。

ボンとパンには今年劇団に入ったばかりの藤原さん（彼はブレイクダンスの高手）と「ミスター・チムニー」で多くの人に共感を得た古木さんが大抜擢されました。また公募による市民の方が主要な役につき、真剣に稽古に取り組まれています。ややもするととても単調になってしまいがちなセリフや動きが演出のダメ出しによって次々と変化してゆく様子は非常におもしろく、稽古を見ているだけでも楽しいことが出来るかも知れません。王様と悪の権化・韓大臣には、大ベテランの小川雅功さんと護柔さんが扮し、これから本番に向かって熱い火花を散らせてくれるでしょう。

前回の「ブンナよ木からおりてこい」、その前の「キバのないオオカミ」では、ともに招待客を入れて千三百弱のお客様に観ていただくことができましたが、年々減少の傾向にあるのは残念でなりません。インターネットやテレビゲームなど、大人でも子どもでもポタン一つでいくらでもバーチャルな世界を楽しむことができる時代に、わざわざ劇場まで足を運んでお金を払って観に来ていただくというのは大変なことかもしれません。でも、このような時代だからこそ、生きた人間の鼓動や本当の汗や涙を感じることのできる生の舞台というものを、一人でも多くの人に観てもらえたら！ と思います。皆様よろしくお願ひいたします。

第33回 かわさき演劇まつり

# はだかの王さま

大人も子どもも楽しめる舞台

アンデルセン＝原作 黒澤参吉＝翻案 内田 勉＝演出

主催 川崎市／(財)川崎市文化財団／かわさき演劇まつり実行委員会

共催 川崎市教育委員会 企画 川崎演劇協会

出演 京浜協同劇団／劇団川崎演劇塾／公募による市民

日程 2007年7月21日 午後2:00/6:30 22日 午後2:00

会場 川崎市多摩市民館 大ホール (開場は開演の30分前)

料金 大人 1,200円 中学生以下 800円 (日時共通、自由席)

観劇申込 往復はがきまたはファックスで希望日時、人数、名前、住所、電話番号明記の上下記へ

〒212-0052 川崎市幸区古市場2-109 (京浜協同劇団内) 川崎演劇協会 FAX 044-533-6694

この夏、きみは冒険の旅に  
出る！  
はだかの王さまの世界へ  
知恵と勇気のボン、パンと  
一緒に

## ◎文化の仲間通信◎

◆第25回 みんなでつくった平和公園 みんなでつくるコンサート二〇〇七

日程 7月29日(日)午後五時開演

会場 中原平和公園野外音楽堂

入場料 無料(参加協力券八〇〇円)

出演者 まあどれ・さいわい/サークル紫陽花/コールアゼリア/川崎太鼓仲間響/合唱団きずな/神奈川合唱団/合唱団いちばん星/国鉄横浜うたう会/ねぎぼうず/SAX・MODE ほか

今年も平和のハーモニーがこだまする♪

平和公園が生まれて二五年。平和公園コンサートも二五回目を迎えます。

問合せ 松平 〇四四・四一一・六四〇二

柳沢 〇四四・四二二・五六三八

◆教師の劇団創芸 第62回公演

町工場 ゆめものがたり

日程 8月2日(木)〜5日(日)

開演 午後二時・午後七時(二日七時・五日二時のみ)

会場 新宿・紀伊國屋ホール

上演協力券(全席指定)三〇〇〇円

高校生以下一五〇〇円

作 萩坂心一 演出 小野川洲雄 出演 永谷研一

／十河慶子／川松泰美 ほか

町工場にまた灯が点る。好評に応じて改作再演!

夏の煌めく大輪花火に照らされて職人氣質のドラマ

マが動き出す。

問合せ 劇団創芸事務所

TEL・FAX 〇四二・四六一・九二六六(永谷方)

<http://members3.jcom.home.ne.jp/sogeti/>

◆川崎市民劇場 第279回例会

クリームインターナショナル制作

I Do! I Do! —結婚物語

作 トム・ジョーンズ/音楽 ハーベイ・シュミット

ト/演出 山田和也/出演 村井国夫・春風ひと

み

日程 8月21日〜28日

会場 宮前・幸・多摩・エポック中原の各市民館

普通の夫婦の普通の事件を、年齢を重ねつつ魅力の二人が展開するミュージカル。

問合せ 川崎事務所 〇四四・二四四・七四八一

溝の口事務所 〇四四・八五五・五九一六

◆第9回 響け!みやま太鼓ミーティング

人の輪 心の和 彩りつなく太鼓の響演!

日程 8月25日(土)午後二時三〇分〜八時

会場 第1部 宮前市民館大ホール

第2部 宮前区役所市民広場

入場料 無料(車でのご来場はご遠慮ください)

出演者 田楽座(テスト)/無限(テスト)/大塚太鼓/川

崎太鼓仲間響/神六太鼓保存会/洗足学園音楽大学

/蔵敷こども太鼓/平保育園/どんどこ/南平こども

樽太鼓/野川親子太鼓大地/東有馬太鼓連 ほか

第2部は広場でかがり火をたいて行います。その

フィナーレは参加団体合同の秩父屋台囃子です。

主催 太鼓ミーティング実行委員会・宮前区

問合せ 宮前市役所地域振興課

電話 〇四四・八五六・三一二五

## ◎編集後記◎

今回の会報も盛りだくさんの内容になりました。劇団員と文化の仲間の会員の交流会では、熱心な話し合いが行われ、ハイキングなどもあって、劇団員と会員の距離が少し近くなったように感じました。新人の発表会では、今後の新人のみなさんのさらなる成長へ期待が高まりました。

会員の西尾恒彦さんは、劇団とのお付き合いも長く、近いところにいた方だけに残念です。ご冥福をお祈りします。

須田輪太郎さんからは、連載の六回目までの原稿をすでにいただいています。お楽しみに!

■文化の仲間ギャラリー■

若菜とき子 ⑧

